

「柔道」と「JUDO」の比較

～柔道の国際化について～

Parallel between Judo of Japan and Judo of world

～internationalization of Judo～

1K03A158-6 氏名 名雪 挙矢

指導教員 主査 小野沢 弘史 先生 副査 関 一誠 先生

要旨

最近のオリンピックや世界選手権を見ていると、とても日本ではありえないような技や組み手、審判のジャッジが目につく。柔道家ではなくても2000年に開催されたシドニーオリンピック100キロ超級決勝の誤審問題は覚えているだろう。

現在世界で行われている試合全体の雰囲気も日本で行われている試合とはどこことなく違うように見える。「お祭り」とまでは言わないがそれに近いものであることは間違いない。

現在柔道は東京オリンピックを境に世界に普及し、今や「世界のJUDO」とまで言われる様になった。

しかし、世界に普及したために柔道の本質が失われているという意見が多々出ている。「JUDOは日本で行われてきた柔道ではない」と諸外国で行われているものと日本で行われているものを区別する意見もある。

確かにこのJUDOと書き表す背景には、単にインターナショナルになった側面を表現している面もあるが、「JUDO」という変質的な格闘技、もしくはスポーツになったという考えが含まれているかもしれない。

日本の国技である柔道が世界に普及し多くの人から愛されることは私も一人の柔道家としてうれしく思う。しかし、世界に普及した為に柔道の本質を変えているのなら残念なことである。

果たして今世界で行われているのは昔からに本に存在している武道という枠の中にある柔道なのだろうか。柔道（日本で生まれ発展したもの）とJUDO（日本から世界に普及した後の柔道）はいったい何が違うのだろうか。

本当の国際化とは何なのか。少なくとも、他国の志向するところや要求に迎合することではないはず。

柔道においては国際化することで日本人自身が国際性を磨き、さらに向上させてゆくことだと信じたい。

はじめに

この卒業研究における問題定義をここではしている。

第1章 柔道（JUDO）について

ここでは日本に昔から存在している柔道の歴史や成り立ちを論じ日本古来の柔道とは何かを記している。

それに加え創始者である嘉納治五郎の柔道に懸けた生涯と柔道を通しての教えを記し柔道の真髄にせまる。

第2章 「柔道」と「JUDO」の違い

第2章では日本でのみ使われる「講道館試合審判規定」と海外の試合で使われ、国際柔道連盟が考案した「国際柔道試合審判規定」の二つのルールを比較。研究し柔道とJUDOの違いを論じている。

比較とともにJUDOの優位点を記し、なぜ世界大会（オリンピックや世界選手権）において日本ではなく、世界の国々が活躍してきているかを論じる。

第3章 世界の動向から見る国際化

第3章において日本から世界に普及して誕生したJUDOが日本の古来からある柔道にもたらした諸問題を記しこれからの世界における柔道のありかたを論じる。

第4章 カラー柔道着から見る国際化

この章では柔道が国際化した大きな要因でもある「カラー柔道着」に焦点を当てて論じる。なぜカラー化したのか、そのときの日本の主張などから日本柔道の移り変わりを読み取り論じている。

終わりに～これからの柔道はどうあるべきか～

ここではこの卒業研究についての結論・まとめ18年間柔道を行ってきた私なりのこれからの柔道に対する意見や願いを記している。

「柔道を世界に普及して良かったのか」「柔道」とJUDOの決定的な違いをここで論じている。